

7月8日、第21回関東36選手権が、14名の参加選手により闘われました。

この時期、梅雨が明けていなくて、雨が心配されました。

家を出てから、レース場の美女木に着くまでは、雨が降ったり止んだりしていて、心配でしたが、開会式が始まる頃には、雨が止みました。

第1レースから第4レースまでは、1から1.5 m/sの風が吹いてくれました。

第4レースが終わった時点では、川本12点、松野20点、関内21点、竹本23点、渡辺25、梅林27点でした。7レース以上レースを消化した後は、

1レースをカットすることができるので、まだまだ波乱含みです。

4レースが終わる頃には、無風となり、昼休みを取りました。

昼休み後、風がわずかに出てきたので、第5レースを始めましたが、

0から1 m/s以下で、風向きもコロコロ変化して5艇がタイムアウトとなりました。

さらに、細かくちぎれたヘドロ状のゴミが漂流していて、ひどいコンディションでした。

その後も第10レースまで半数以上の艇がタイムアウトとなってしまいました。

最終レースの第11レース時にやっと1.5 m/s程度の風がでて、ゴミも無くなり、全員フィニッシュすることができました。

タイムアウトが一度もなかったのは、梅林艇のみで、川本艇もタイムアウトを一度頂きました。

結局、タイムアウトの数と、カット点数により、勝敗が決まりました。

最終順位は、1位川本、2位梅林、3位石井 となりました。

今回のレース中、目立った走りをした船として、梅林艇が挙げられます

第7レース以降、素晴らしい走りで1、2、3位を保持し続けました。

さすが、ベテランのスイングリグを使いこなす走らせ方でした。

石井艇もスイングリグで、後半の頑張りにより3位を勝ち取りました。

4位の関内艇も、良く健闘していました。ボブのセールで、旧池松艇をバランスよく走らせていました。これからの活躍が期待できます。

5位の渡辺艇は、Aリグが最近不調なのでBリグに落としての参戦でした。

今回のコンディションでは、Bリグには厳しかったようです。

トリマランで参加した、松野艇にも風が不足していました。

いつもの、ヒールさせての豪快な走りができませんでした。

ぜひ全日本にも参加して、豪快な走りをアピールしてもらいたいです。

風に恵まれませんでしたでしたが、スポーツマンシップに則り、フェアなレースをすることができました。

これからも、艇に改造、改悪を、また、搬送テクニックを磨き、全日本36選手権で活躍をしましょう。